

良子さんの ほっと一息ティータイム

“どきっ”と“どきっ” 熊谷 良子 vol.21

子育てを通して多くの絵本に出会えたことは幸せなことでした。
絵本があると、人と人の間に穏やかで明朗な談笑を生みます。まるで肌触りの良いクッションのように、
すっと気持ちを近づけてくれる不思議な役割を果たしているようです。

子育てや仕事や自分自身の生き方などに悩み、迷路をさまよっているような時期に選んだ絵本は、
『わにさんどきっ はいしゃさんどきっ』（五味太郎 偕成社）でした。

虫歯を治療しにきたわにさんと歯医者さんの話です。

「どきっ—どきっ」「どうしよう…—どうしよう…」「こわいなあ…—こわいなあ…」

「でもがんばるぞ—でもがんばるぞ」「かくごはできた—かくごはできた」……

同じ場面で、同じ言葉が両方から出てくるのです。

患者のわにさんも治療する歯医者さんも、同じ気持ちなのですね。



私たちは誰かの助けが必要なときに、「助けて」と素直に言えないときがあります。これくらいのことで頼ってはいけない、
これくらいの事が解決できないのは恥ずかしい、迷惑をかけてはいけない、というブレーキがかかります。
つい、相手との関係性を上下関係や力関係、社会的評価などで捉え、自分の位置づけを計ることが身につけていると、
「サポートを受ける人とサポートする人」の関係も苦しいものになります。

助けを求めることができる力は、生きる力だと思います。

サポートを受ける人にもサポートする人にも、両方に「どきっ」「どうしよう」「こわいなあ」は、あっているのです。

そして、その心の内は、大きさも、重要さも他者と比べることはできません。絵本の“わにさんとはいしゃさん”は、今でも大切な羅針盤です。

絵本

『わにさんどきっ はいしゃさんどきっ』五味太郎 偕成社 1984

2024. 2. 1